

【高等学校用】

令和6年度学校評価 中間評価

達成度(評価)	
A	: 十分達成できている
B	: おおむね達成できている
C	: やや不十分である
D	: 不十分である

学校名	佐賀県立佐賀工業高等学校 定時制
1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> 学力向上の取組において、国語については基礎学力の定着が見られたが、数学については改善に繋がっておらず更なる取組が必要である。 心の教育において、各種講話のアンケート結果が良好で一定の効果があった。また、いじめ問題の対応においては、事業の現地・認知とも高く高い評価であった。 健康・体づくりにおいて、給食アンケートの実施・給食便りの発行、食育に係る講話により喫食率の向上に取り組み込んだ結果となった。 志願者が減少傾向にあり、高校説明会、中学校訪問を行った結果入学者数が増加した。今後も一層の定時制教育の魅力発信に取り組む必要がある。

2 SAGAスクール・ミッション 学校教育目標	中部地区唯一の工業科を持つ定時制高校として、地域及び日本の産業界を牽引し、高い倫理観をもって、人々が暮らしやすい社会を創造できる工業技術者を育成する。
-------------------------	---

3 スクール・ポリシー	アドミッション・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	グラデュエーション・ポリシー	4 本年度の重点目標
<ol style="list-style-type: none"> ものづくりに積極的に貢献し、地域・社会に貢献する技能・技術を育成します。 基本的な生活習慣の確立、社会で通用する基礎学力を育成します。 社会的・職業的自立に向けた動向や職業観を育成します。 多様性を受け入れ、人権感覚を持った豊かな心を育成します。 	<ol style="list-style-type: none"> 少人数でのきめ細やかな指導により、一人一人を尊重し、安心して取り組める授業を実施します。 基礎学力の定着と家庭学習の習慣化に取り組む。 アルバイトや社会活動を推奨し、学校外での活動を通じ、社会人としての基礎力の養成に努めます。 	<ol style="list-style-type: none"> 仕事と学業の両立を目指し、まわりの人々と力を合わせて物事に取り組む協調性のある生徒 就職または進学を目標とし、高校を卒業したいという強い気持ちを持った生徒 ものづくりに興味・関心を持ち、資格取得に意欲的に取り組むことができる生徒 	<p>“ものづくり”から“者(ひと)づくり”そして“未来(あす)づくり”</p> <p>a 新たな課題への着実な対応 b 深い生徒理解に基づく指導 c 規律ある高校生活の定着 d ものづくり教育の推進 e 開かれた学校づくりの推進</p>	

5 重点取組内容・成果指標

(1)共通評価項目				中間評価		最終評価				主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標(数値目標)	具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		
				進捗度(評価)	進捗状況と見通し	達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	○わかる授業の実践と学習意欲の向上	○4年生での学びの基礎診断を活用し、国語・数学の平均点を50点以上にする。	・生徒個々の学力を把握するとともに、学力に応じた基礎的な内容や一般常識学習を取り入れる。	B	・4年の学びの基礎診断は、準備の期間を取り各教科と全教職員との協力を得て取り組んだ。学習の習慣化と学習の時間が図れば、一層向上するものと思われる。	A	・準備期間を6日以上設けた全職員の協力で目標達成ができた。生徒のアンケートでは、学習に対して主体的に取り組むことが、十分及びおおむねできていると8割の回答であった。	A	・目標を達成できたとのことで素晴らしいと思います。 ・「分かる授業」は、その時代で難しい課題だと思います。	教務
●心の教育	●生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○相手の思いやる、命の尊さを再認識するような機会をつくる。 ○人権感覚を持った豊かな心を育成する。	・エイズ予防講話、性に関する指導講話を実施する。 ・ホームルーム活動において人権教育、情報モラル教育を実施する。	A	・前期にエイズ予防講話、スクールカウンセラー講話を実施し、自分を大切にすること、相手を思いやることを通じて命の尊さについて考えた。 ・人権についての生徒研修会、人権学習・道路保障ホームルームを行い、さまざまな人権を学んだ。	A	・6月にエイズ予防講話、9月にスクールカウンセラー講話、12月に性に関する指導講話を実施した。性に関する講話では、生徒に重なり入ったリュックを使って妊婦体験を行った。これらの講話を通して、命の尊さから誕生、自分の存在の大切さ、相手を思いやる気持ち等について考えた。 ・人権についても生徒研修会等で、いろいろな人権について学び、相手を尊重することを考えた。	A	・多くの活動に取り組み素晴らしいと思います。 ・情報化社会において人間の倫理観や豊かな心はますます重要である。 ・各種講話は、様々な活動を通じて豊かな心を育てられていると思います。	保健厚生
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○学校生活アンケート等を2か月に一度実施し、「未然防止」「早期発見」「早期対応」に向けた体制の推進する。 ○いじめを「しない」「させない」「ゆるさない」心を育成する教育を実践する。	・アンケート調査ならびに担任による面談等を実施する。 ・全職員による登校指導等を行い、未然防止・早期発見につなげる。 ・全職員によるいじめの認知と認知に関わる情報の共有化を図る。 ・ホームルーム活動や集会等で、心を育成する教育を実践する。	A	・アンケート調査を2ヶ月に一度実施し、いじめの未然防止、早期発見、早期指導に努めている。また、担任による面談および登校指導については年間計画に基づいて確実に進めている。4月より現在まで、特別指導措置は0である。 ・LHRでは年間計画に基づいて交通安全教室、防犯教室、薬物乱用教室を講師を招き、生徒への啓蒙活動を行っている。	A	・アンケート調査は一年を通じて、いじめや困っていることはないという回答のみで、生徒たちの雰囲気も穏やかで、落ち着いて授業に取り組んでいる。 ・年間を通じて交代で登校指導を行い、今年度は下校時も駐輪場に立ち、生徒への声かけを行った。結果的に毎日交通用具検査を行っていることになり、無灯火やベルの不備などをいち早く指導することができた。	A	・生徒の雰囲気が良いのは何よりかと思っています。 ・生徒が落ち着いて授業に取り組んでおられるとのことで素晴らしいと思います。	生徒指導
	◎ふるさと佐賀への思いを醸成するための教育活動	◎ふるさと佐賀についての理解の深化と、佐賀を愛し誇りに感じる人材を育成し、佐賀を誇りに思う生徒80%を目指す。	・学校周辺の史跡探訪や佐賀の歴史や文化と人物についての講演会等を実施し、佐賀についての理解を深め佐賀に対する誇りと自信を持つ人材を育てる。	B	・学校周辺の史跡探訪として築地反射炉跡を見学したり、前身が鍋島直正公の別邸であった神野公園を散策し、江藤新平の像の前で江藤新平の業績を学ぶ郷土の誇る偉人たちについて知ることができた。同時にボランティア活動としてゴミ拾いを行った。	B	・さがを誇りに思う教育事業の一環として講演会「都市計画」を行い、生徒アンケートを取ったところ、講演の内容については、大変良かった64%、良かった36%、郷土の価値を再認識できたかの問いに対しては、できた79%、どちらかといえばできなかった21%と、いずれも肯定的な回答が多かった。	A	・生徒アンケートの結果からみても効果的な取り組みがなされていると思います。 ・史跡をめぐる歴史を学ばれたことは、一生の思い出になると思います。	総務
●健康・体づくり	●「望ましい生活習慣の形成」 ●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	●「健康に良い食事をしている」生徒80%以上 ○給食喫食率80%以上を目指す。 ○感染症、食中毒等を防ぐための自己管理能力を育成し、「手洗いは大切である」と答える生徒100%を目指す。	・食育講話を実施。食に対する重要性を説き、喫食を促す。 ・給食アンケートを2回実施する。 ・グリッターバッグを使った手洗い指導を実施(1年生対象)する。 ・生徒昇降口に給食のメニューと摂取できる栄養素を提示する。授業で食品ロス・ゼロ川柳コンテストに応募する等食事と栄養に対する意識を高める。	B	・1回目の給食アンケートでは、「食事をしっかりとることは大切である」に82%の生徒が回答した。2回目の給食アンケートで、「健康に良い食事をしている」について質問する予定である。 ・給食の喫食率については、前期は67%であった。食に対する重要性を説いていきたい。 ・感染症対策などの一環で、手洗い指導を行い、「手洗いは大切である」と100%の生徒が回答した。	A	・外部講師を招き、食育講話を行った。食事の際に、生産者・調理者への感謝を態度で示すことの大切さを理解させることができた。 ・生徒のアンケートで「食事をしっかりとることは大切である」に82%と回答しながら、「健康に良い食事をしている」には53%であった。健康について考えながら食事をとることの重要性を継続して話していきたい。給食喫食率は88.6%で、目標値を超えた。給食担当者が、食事の提供についての工夫や生徒への声かけなどを行い食べやすい雰囲気を作った。	A	・給食室の雰囲気作りで効果をあげられ、目標も達成されたとのことで本当に素晴らしいと思います。 ・手洗いの大切さや給食喫食率の目標を達成されているので素晴らしいと思います。	保健厚生
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・学校閉庁日の設定、年次休暇の積極的取得を推奨し、教職員の心身の健康増進に努める。 ・学校行事の精選に努めるとともに、校内の諸会議を勤務時間内設定し、業務の適正化を図り、より効果的な教育活動を行う。	A	・時間外在校時間は、毎月昨年度より削減ができています。休日におけるSAGA国スポ関係の出張についても計画的に振休を取得してもらうことができています。 ・不登校対応について、教育相談と連携して担任の負担を軽減することができています。	A	・時間外在校時間は、中間評価同様毎月昨年度より削減が続いている。SAGA国スポ関係の出張についても振休を取得することで職員の負担となることはなかった。 ・職員会議等の会議資料を早めにデジタルで配信することで会議時間の短縮に繋がっている。	A	・従来、時間外労働の多さから、教職員のなり手が不足しているとの記事を見たことがあります。引き続きワークライフバランスの充実をお願いしたいです。 ・効果をあげられており素晴らしいと思います。	管理職
●特別支援教育の充実	○特別支援教育に関する教員の意識の向上	○生徒それぞれの個性を受け入れ、社会に出る前の準備期間として、支援・見守りを行う。	・特別支援教育に関する研修会を実施する。 ・ケース会議の開催、関係者間での情報共有を行う。 ・月1回の職員会議で、教員が情報を提供し、全体で組織的に対応する。	A	・8月に特別支援教育に関する研修会を行い、生徒の個性や支援について考えた機会となった。 ・月1回の生徒情報共有を通じて、全体で声かけや見守りなどを行っている。	A	・特別支援に関する研修会を行い、生徒の個性や支援について考え、月1回の生徒情報共有を通じて、全体で声かけや見守りなどを行った。 ・特別支援教育に関するケース会議を開き、SCやSSWなど専門家の意見を交えて、情報共有と対応を行った。	A	・効果をあげられており素晴らしいと思います。 ・目標を達成されており素晴らしいと思います。	保健厚生

(2)本年度重点的に取り組むべき				中間評価		最終評価				主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標(数値目標)	具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		
				進捗度(評価)	進捗状況と見通し	達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言	
○進路実現	○進路実現 生徒が希望する進路を実現させる	○就職内定率、進学内定率ともに100%を目指す ○進路意識の高揚と職業観・勤労観の育成と定着。年度末生徒アンケートで「身についた」生徒70%以上を目指す	・生徒の能力・適性・希望に合った進路先の情報提供と適切な指導助言に努める。 ・在学中の就業率向上と職業講話などを通して職業観・勤労観の育成と定着を図る。	A	・就職希望者4名中4名が受験し全員が内定をいただき、進路実現が100%達成できた。 ・進学希望者2名のうち、1人は指定校推薦の専門学校、もう一人は佐賀県の職業訓練校を受験して合格した。 ・前期に引き続き後期も職業講話を予定している。	A	・就職希望者4名中4名が受験し1社目(第1希望)で全員が内定をいただき、進路実現が100%達成できた。 ・進学希望者2名のうち、1人は指定校推薦の専門学校、もう一人は佐賀県の職業訓練校を受験しいずれも1回目の受験(第1希望)で合格し、進学組も進路実現100%を達成した。 ・前期に引き続き後期も職業講話を予定している。	A	・進路実現100%素晴らしいと思います。	進路指導
★ものづくり教育の推進	★ものづくりに対する興味関心の醸成 ○ジュニア・マイスター取得者及び各種競技会上位入賞者増の実現	★自分の学校を中学校に勤めることができる生徒の割合を78%以上、教職員の割合を85%以上とする。 ★学習に対し、主体的に取り組んだと思う生徒80%以上を目指す。 ○各種資格取得について、次の目標を達成する。 ・パソコン利用技術検定合格率75%以上 ・危険物取扱者試験合格率40%以上 ・第2種電気工事士合格率100%以上	・少人数でのきめ細やかな指導により、生徒の個性・能力・特技の伸長を図る。 ・始業前、放課後の補習を実施し、資格取得に対するチャレンジマインドの向上を図る。 ・学習が遅れ気味の生徒へは、個別指導を実施する。	A	・計算技術検定では3・4級とも全員合格でき、合格率100%となり目標85%をクリアすることができた。また、電気工事士でも、2名受験し全員合格することができ、目標の100%を達成した。 ・授業と同様に、補習においても少人数のきめ細やかな指導が実施できた成果である。 ・後半に実施されるパソコン利用検定試験、危険物取扱者試験でも補習を実施し、それぞれの合格率の目標値を目指す。	A	・学校を中学校に勤めることができる生徒は93%、教職員100%で目標達成。 ・学習に対し、主体的に取り組んだと思う生徒は80%で目標達成。 ・計算技術検定・電気工事士とも合格率100%で目標達成。 ・パソコン利用検定試験合格率71.4%で目標には届かなかったが、危険物取扱者試験は合格率55.6%で目標を上回った。 ・資格取得に関して、少人数での補習を行い、きめ細やかな指導が実施できた成果である。	A	・高校時代に資格を取得できることは良いことです。 ・若いOB等を招き、高校時代に取得した資格の良い点や苦勞した点を話してもらうなど、近い年齢のOBが話した方が納得すると思います。 ・きめ細やかな指導で目標を達成されており素晴らしいと思います。	機械科 電気科
○開かれた学校づくりの推進	○魅力ある情報の発信 ○志願者、保護者の学校理解の推進	○年度末アンケートで学校の理解ができた保護者70%以上を目指す。	・学校ホームページに学校行事等の情報を掲載する。保護者後援会総会でホームページ掲載を知らせ、授業参観を行う。 ・ウェブナーや高校進学説明会に積極的に参加し魅力を発信する。	B	・学校ホームページ掲載では、行事ごとに個人情報考慮しながら情報発信を行っている。志願者には、説明会と学校ホームページを活用し積極的に魅力を発信する。	A	・学校ホームページや学校パンフレットを中学校に配付してPR活動を行った。学校見学に来校された中学生が10名に上り、昨年度より増加した。	A	・PR活動の実施など十分取り組まれていると思います。	管理職 教務

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育 ★…唯一無二の誇り高き学校づくり

6 総合評価・次年度への展望	<p>「学びの時間」の取組において、学習に対して主体的に取り組むことが、十分及びおおむねできているが8割の回答であり、学習に対しての意識の向上につながっている。次年度においても継続して学習意欲の向上に努める。</p> <p>「いじめ問題への対応」については、事業の認知が、1件であった。成長過程でいじめは起こるものという認識のもと、いじめの未然防止、早期発見、早期指導に努める。また、教育相談体制を維持し、生徒の安心安全な学校生活の確保に取り組んでいく。</p> <p>給食アンケートでは、健康について考えながら食事をとることの重要性を伝えることに課題が残った。一方、給食喫食率は88.6%で、目標値を超えた。給食担当者が、食事の提供についての工夫や生徒への声かけなどを行い食べやすい雰囲気を作った。次年度も「食の大切さ」を含めた健康教育の充実に取り組む。</p> <p>学校紹介パンフレットの工夫、高校説明会、中学校訪問等を通じて、一層の定時制教育の魅力発信に取り組む、生徒募集に繋げる。</p>
----------------	---